



東京電機大学 工学部 建築学科

大山 理香

このプロジェクトは、都心にある既存の常盤小学校と幼稚園に隣接した狭小の敷地に「子育て・親育て」の場を創る提案である。現在公園となっている敷地に、地域に開放されたオープンスペースである「常盤プロムナード」を中心として計画した。子供たちは異年齢児とのふれあいや集団遊びを通して社会性・創造性をはぐくむ。さらに、子育て支援や「食のスタジオ」での活動による世代間交流を通して、大人たちが子供の生活環境に対する意識を高める。かつて家族や地域が担っていた次世代を育成する機能を、地域の人々の手で現代にふさわしい形で再構築し、子育てを支援する場所としたい。



## 講 評

この作品は、地域皆で子育てをし、親も一緒に生長しようとする「子育て・親育て」の場の提案である。建物は非常に美しく、コンパクトに計画されている。敷地条件は厳しく三角形の地形でそれ程広くない。それなのに作者は敢えてこの敷地に挑戦している。それは作者の子育てが抱える社会問題を身近な敷地（常に条件の良い土地とは限らない）で計画することに意義があると考えからである。

計画の手法は、敷地に道（常盤プロムナード）を設定し、地域の人々が集まりやすくすること（gather）、そして人が集まり関係性が出来る（diffusion）様に、建築的に開かれた様々なオープンスペースを用意している。

この地域に、適度に開放されたオープンスペースは異年齢児との触れ合い、集団遊びを通して社会性の創造を育み、又親育ての場としての機能の活用など作者の狙いが見事に実現出来そうである。コンパクトな建物ではあるが、様々なメニューが緻密に絡み合った美しい建物だと思う。

[ 審査員 大岩 義充 ]